

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



三重県におけるSDGsの推進について

令和2年12月7日

三重県

目次

- 1 「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」と
SDGs
- 2 SDGsに関する体制と三重県SDGs推進窓口
- 3 三重県SDGs未来都市計画
- 4 三重県SDGs未来都市モデル事業
～若者とめざすミッションゼロ2050～

「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」とSDGs

みえ県民カビジョン・第三次行動計画とは

平成24年から概ね10年先を見据えた長期の戦略計画「みえ県民カビジョン」を着実に推進するため、令和2年度から5年度までの中期の戦略計画として策定、令和2年4月からスタート。

三重とこわか国体・
三重とこわか大会の開催



H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31/ R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------------	--------------------------	------------	------------	------------

みえ県民カビジョン
(おおむね10年先を見据えた計画)

第一次行動計画

第二次行動計画

第三次行動計画

第三次行動計画の3つのポイント



(1) 三重県らしい、多様で、包容力ある
持続可能な社会

(2) Society5.0とSDGs

(3) 地方創生

「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」とSDGs

経済発展と社会的課題の解決を両立する
人間中心の社会の実現に寄与

SDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールと169のターゲットの実現に寄与

<めざす姿>

(ビジョン・基本理念)

「県民力でめざす『幸福実感
日本一』の三重」

三重県らしい、多様で、
包容力ある持続可能な社会

- 将来に対して不安を感じることなく、安心して暮らすことができる社会
- 自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる社会
- ライフステージに応じて多様な働き方ができる社会
- より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる社会
- 家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる社会
- 美しい自然や多彩な文化などの魅力あふれる地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる社会
- 活力のあるさまざまな産業が発展する中で、めざす仕事に就き、いきいきと働くことができる社会

Society 5.0を
支える技術

協 創

経済・社会・環境
の3つの側面からの
統合的な取組

Society 5.0の視点

- 「イノベーション」による新たな価値の創出と課題解決
- 多様なニーズへのきめ細かな対応による生活の質の向上
- いつでもどこでも「つながる」ことによる機会の創出
- Society 5.0を支える人材・基盤づくり

SDGsの視点

- 誰一人取り残さない（包摂性）
- 全てのステークホルダーが役割を担う（参画型）
- 経済・社会・環境の3つの側面で統合的に取り組む（統合性）

「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」とSDGs

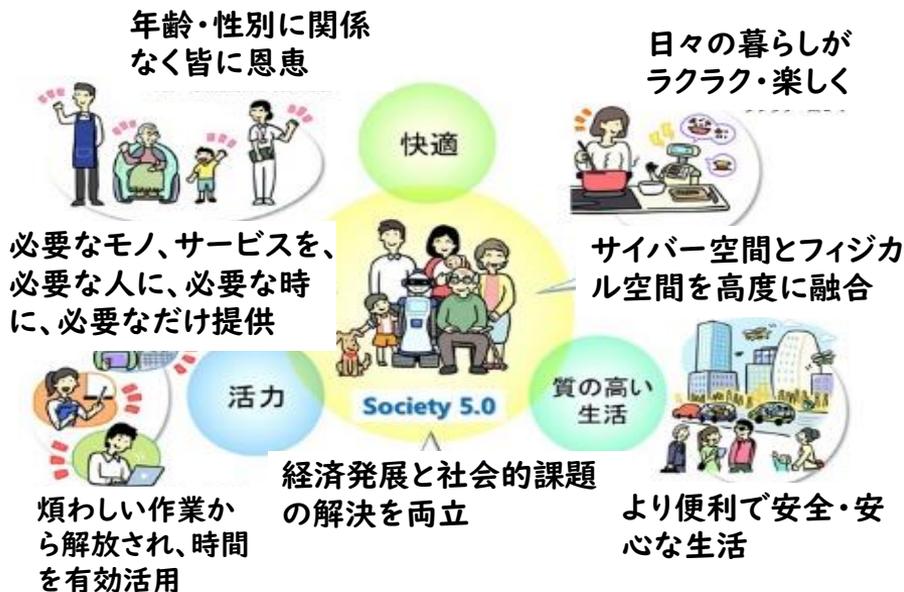
<施策展開の考え方> 「協創」の視点に加え、「**Society 5.0**」および「**SDGs**」の視点を取り入れ、**施策展開**

経済発展と社会的課題の解決を両立する
人間中心の社会の実現に寄与

SDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールと169のターゲットの実現に寄与

Society 5.0とは

出典：内閣府作成資料



「Society 5.0」とは

- 超スマート社会の実現に向けた一連の取組
- 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、「経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」の実現をめざす

SDGsとは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「SDGs(持続可能な開発目標)」とは

- 2015年9月に国連サミットで採択、2030年までに達成すべき国際社会全体の開発目標（17のゴール、169のターゲット）
- 「誰一人取り残さない」ことを理念とし、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現をめざす

「SDGs」の視点

① 誰一人取り残さない（包摂性）

・性別、年齢、障がいの有無、国籍、性的思考・性自認などにかかわらず、すべての県民の皆さんの希望の実現をめざす

② 全てのステークホルダーが役割を担う（参画型）

・全ての県民の皆さんが、自立し、行動する県民（アクティブ・シチズン）として、協働による成果を生み出し、新しいものを創造していく「協創」を進める。

③ 経済・社会・環境の3つの側面で統合的に取り組む（統合性）

・課題相互の関連性を意識し、統合的に取り組むことで、相乗効果を発揮し、持続可能な経済成長と、人と自然との共生の両立を進める

「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」とSDGs

「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」の施策とSDGs（持続可能な開発目標）

SDGsの17の目標（ゴール）は、経済・社会・環境の3つの側面を一体不可分なものととらえ、相互のつながりを深く理解し、紐解くことで、地域が取り組むべき複数の課題の同時解決をめざすものであり、こうしたSDGsの考え方は、私たちがめざす社会の姿である「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」の実現に大きく寄与するものと考えられる一方、第三次行動計画の各施策の取

	政 策	施 策	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
								
I 「守る」く命と暮らしの安全・	I-1 防災・減災、国土強 靱化	111 災害から地域を守る自 助・共助の推進	○			○		
		112 防災・減災対策を進め る体制づくり	○			○		
		113 災害に強い県土づくり	○					
	I-2 命を守る	121 地域医療提供体制の確 保			○	○		
		122 介護の基盤整備と人材 の育成・確保			○	○		
		123 がん対策の推進			○	○		
		124 健康づくりの推進			○	○		

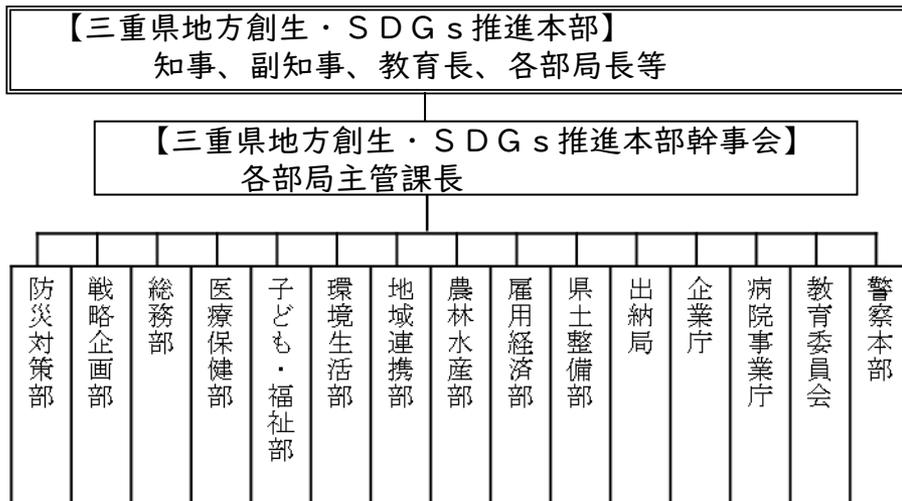
2 SDGsに関する体制

SDGsを原動力として県の地方創生の取組、SDGsの普及啓発や情報発信、民間との協創等、県内におけるSDGsに資する取組の活性化を図ります。

1. 三重県地方創生・SDGs推進本部

- 各施策においてSDGsの視点を取り入れた「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」の推進にかかる協議を行う。

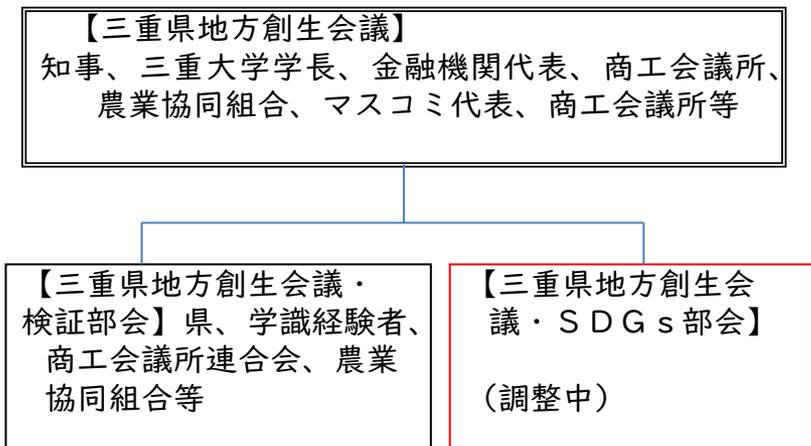
体制：知事をトップに、副知事、各部局長、教育長による推進本部と、各部局の主管課長による幹事会を設置。



2. 三重県地方創生会議 SDGs部会（仮称）

- SDGsの視点での各施策の進捗管理・前年度の検証（SDGs未来都市の検証を含む）を行い、推進本部にフィードバックする。

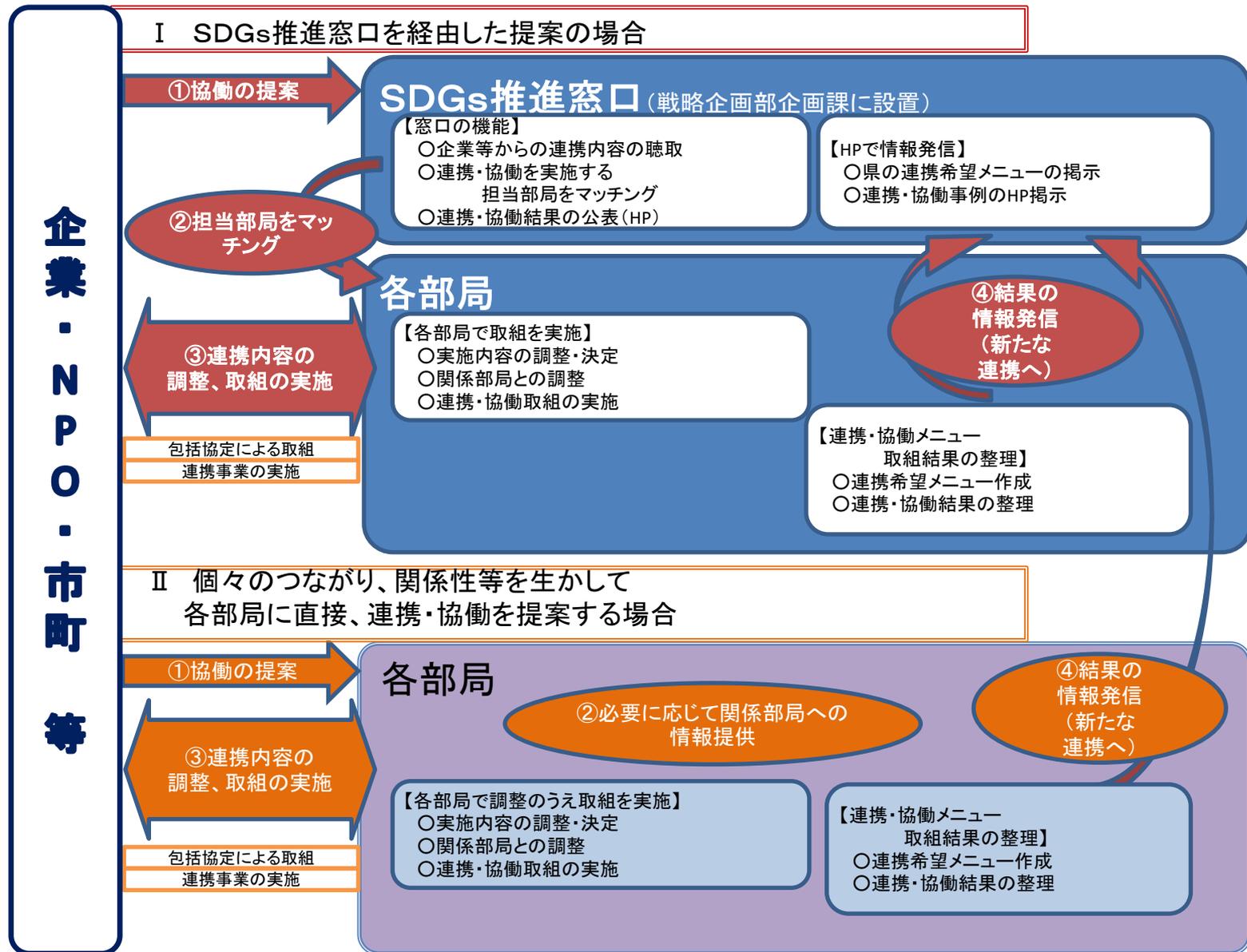
体制：外部有識者で構成。学識経験者、関係団体（商工関係、農林水産関係等）、金融機関、マスコミ等を想定。



●SDGs推進窓口（以下、「推進窓口」）の役割

- (1) 企業・団体等からの申し出に対し、県と連携・協働して実施する取組提案の内容、めざす成果について聴き取りを行う。
- (2) 内容に応じ、担当部局としてふさわしい部局とのマッチングを行う。
- (3) 担当部局において、連携・協働の手法（包括協定による取組、協働事業の実施）や、連携・協働して取り組む内容の調整を実施
- (4) 連携・協働取組の結果（実績）や、県が企業・団体等と連携・協働して実施していきたいと考えている取組メニューについて、県HPで情報発信

2 三重県SDGs推進窓口



マックスバリュ東海(株)と三重県の連携スキーム

「三重県ありがとう」キャンペーン

× 三重とこわか健康マイレージ事業

連携内容

三重県内のマックスバリュ東海45店舗で、「三重県ありがとう」キャンペーン対象商品を購入いただくと、地産地消につながるとともに、その売上の一部が「三重とこわか健康マイレージ事業」に寄附されます。(令和2年9月1日～)



三重県ありがとう キャンペーン



三重県産品の
消費拡大



・三重のじもの
商品販売拡大
・売上の一部を
寄附



・マイレージ事業
の活性化
・食生活と健康を
通じた取組の
連携一層強化



三重県

三重とこわか健康 マイレージ事業

健康づくりに
取り組む県民の増加



地産地消と
健康づくりの
好循環をめざす

関係するゴール

3 すべての人に
健康と福祉を

11 住み続けられる
まちづくりを

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

3 三重県SDGs未来都市計画 ～計画の概要～

＜提案全体のタイトル＞
若者と創るみえの未来
～持続可能な社会の構築～

＜全体計画の概要＞

三重県らしい持続可能な社会をめざし、若者の参画を得て、現在課題と捉えている深刻な人手不足や若者の県外流出、自然環境の維持に向けた取組を推進する。取組にあたっては、庁内全部局で推進体制を組成するとともに外部有識者による検証体制を整え、ステークホルダーと共に、事業間連携、PDCAサイクルによる事業改善を図っていく。



3 三重県SDGs未来都市計画

「三重県の現状と課題、目指すべき姿」～SDGs未来都市提案の背景～

地域の実態

- 名古屋・大阪の大都市圏にまたがる全国上位のものづくり県 (2018年工業統計で全国9位)

若者と県全体の転出超過数



- 近年、特に若者の県外流出が続いており、喫緊の課題となっている。

製造品出荷額等(2018工業統計)

順位	府県名	兆円
1	愛知県	47.0
2	神奈川県	18.0
3	大阪府	17.0
～		
9	三重県	10.5

2030年のあるべき姿

「若者」に三重県の地域課題の解決に向けた取組への積極的な参画を促し、若者のシビックプライドの醸成、活躍できる場の創出へとつなげていくことで、若者が県内に定着し、地域の中心となって活躍する人材へと成長している。

- 高度経済成長期に発生した四日市公害問題に事業者、県民と一体となって取り組んできた地域

- 四日市に所在する国際環境技術移転センター(ICETT)では、開発途上国を中心に約90か国、8,400名に公害防止技術を移転



- 2050年の脱炭素社会の実現をめざす脱炭素宣言(2019年) (小泉環境大臣との対談の様子)



地域における脱炭素化対談



- 海の資源を採りすぎない海女漁が受け継がれる地

- パリ協定の早期実施をコミットした伊勢志摩サミットの開催県



- 気候変動等に危機感を持つ、太平洋島しょ国首脳が会する太平洋・島サミットが2021年に県内開催 ⇒ SDGsの取組を発信する絶好の機会

3 三重県SDGs未来都市計画

1.1 将来ビジョン

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット

【経済】再生可能エネルギーの割合を高めつつ、三重県の産業のあらゆる分野でIoT・AI等のICTを最大限に活用して、イノベーション、技術・生産性・付加価値等の向上、多様化の促進を図り、それらを活用する人材を育成する。



【社会】食品ロスの削減推進、環境負荷の少ないライフスタイルへの転換など、自ら行動する人づくり等をさまざまな主体と連携して進めることで持続可能な社会の実現を図る。



【環境】大気、水環境の保全に努め、プラスチックごみ対策等により伊勢湾をはじめとする自然環境の保全を図るとともに、ごみの発生・排出の抑制、3Rの一層の推進により廃棄物の発生を極力抑える。



3 三重県SDGs未来都市計画

1.2 自治体 SDGs の推進に資する取組

経済面の主な取組



- **Society5.0時代の産業創出、次世代ものづくり産業の振興**
 - ・ 県内ものづくり企業と連携を図りつつ、今後必要とされる高度ものづくり技術者の育成を支援し、生産性向上並びに事業拡大、新規雇用の創出、職場への定着を促進する。
- **ICTやデータの利活用による産業振興**
 - ・ 「みえデータサイエンス推進構想（R2.3策定）」に基づき、産学官が連携しICT等の導入、利活用の推進、データを活用した新商品・サービスの創出・地域課題の解決につなげる。
- **地産地消型のエネルギーシステムの導入促進**
 - ・ 多様な主体の協創による、新エネルギーの導入促進、省エネの推進、創エネ・蓄エネ・省エネ技術を活用したまちづくり、環境・エネルギー関連産業の振興等に取り組む。



3 三重県SDGs未来都市計画

1.2 自治体 SDGs の推進に資する取組

社会面の主な取組

- **多様な主体とのパートナーシップ**
 - ・ 環境マネジメントシステムやグリーン購入などの普及拡大を図ることにより、県内事業者の自主的な環境経営の取組を促進し、温室効果ガスの排出削減を図る。
- **脱炭素社会に向けた家庭での取組促進**
 - ・ 食品ロスの削減等に向け、食品提供企業とフードバンク団体等をつなぐためのマッチングセミナーを開催するほか、食品ロスをテーマにした体験型イベントを開催する。
 - ・ 自家用車や公共交通などのモビリティ・マネジメントや次世代モビリティの導入を多様な主体と連携して推進するとともに、自転車の活用を推進する。



1.2 自治体 SDGs の推進に資する取組

環境面の主な取組

●海洋プラスチック対策の推進

・海洋プラスチックごみを含むプラスチックごみ対策として、ワンウェイプラスチックの削減など多様な主体と連携した効果的な事業を総合的に展開する「みえプラスチックスマートプロジェクト」を構築する。

●伊勢湾をはじめとする自然環境の保全

・海岸漂着物対策として、市町等の取組へ助成するほか、「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」等を広域的に展開、きれいで豊かな海の観点を取り入れた調査研究を実施する。



4 三重県SDGs未来都市モデル事業～若者とめざすミッションゼロ2050～

「自治体SDGsモデル事業の概要」

世界・地域の課題に関心の高い若者が、企業をはじめとする多様な主体と共に脱炭素社会の実現に向けたプラットフォームに参加することで、若者のシビックプライドを醸成するとともに、同じプラットフォームに参加する企業や団体の若者にとっての魅力を高め、若者の県内定着、課題解決に向けた三側面の活動の加速化を図る。

経済

課題…深刻な労働力不足

- Society5.0時代の産業創出、次世代ものづくり産業の振興
- ICTやデータの利活用による産業振興
- 地産地消型のエネルギーシステムの導入促進

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



社会

課題…若者の県外流出

- 多様な主体とのパートナーシップ
- 脱炭素社会に向けた家庭での取組促進

11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



17 パートナーシップで目標を達成しよう



- 三側面をつなぐ統合的取組
「ミッションゼロ2050みえ
～みんなで始めるSDGs脱炭素プロジェクト～」
- 産学官等のプラットフォームの構築
 - 高校生・大学生との連携・意見収集
 - 普及啓発イベントの開催等 ● 企業等と連携した取組

課題…未来に向けた自然環境の維持

- 海洋プラスチック対策の推進
- 伊勢湾をはじめとする自然環境の保全

環境

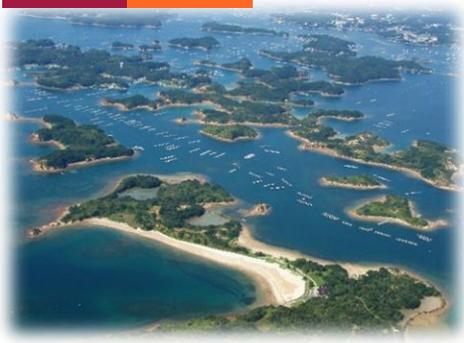
6 安全な水とトイレを世界中に



11 住み続けられるまちづくりを



14 海の豊かさを守ろう



4 三重県SDGs未来都市モデル事業～若者とめざすミッションゼロ2050～

庁内体制

1. 三重県地方創生・SDGs推進本部

- 各施策においてSDGsの視点を取り入れた「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画」の推進にかかる協議を行う。

体制：知事をトップに、副知事、各部長、教育長による推進本部と、各部署の主管課長による幹事会を設置。

【三重県地方創生・SDGs推進本部】
知事、副知事、教育長、各部長等

【三重県地方創生・SDGs推進本部幹事会】
各部署主管課長



ミッションゼロ2050みえ推進チーム（三側面をつなぐ統合的取組）

- ・ 脱炭素社会の実現に向けた知事を長とする産学官等によるプラットフォーム
- ・ 推進チーム内には、参加企業、県内学生等による「若者チーム」も設置

2. 三重県地方創生会議 SDGs部会(仮称)

- SDGsの視点での各施策の進捗管理・前年度の検証(SDGs未来都市の検証を含む)を行い、推進本部にフィードバックする。

体制：外部有識者で構成。学識経験者、関係団体(商工関係、農林水産関係等)、金融機関、マスコミ等を想定。

庁外体制

3. ステークホルダーとの連携

- SDGsモデル事業では、統合的な取組をはじめ、多様な主体と連携して、取組を進める。

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
民間企業	ミッションゼロ2050みえ推進チーム(以下、「推進チーム」)に参画し、モデル取組を実施、検証を行う。
県内高等教育機関	県内高等教育機関や高等教育コンソーシアムみえの推進チームへの参画、学生への普及啓発等
国際環境技術移転センター(ICE TT)	県民への啓発、事業者の取組への助言
三重県環境学習情報センター	環境学習の拠点としての各種環境講座等による普及啓発
県内観光団体	自然環境を含めた景観等の情報発信
県内環境団体	推進チームへの参画、会員への協力の呼びかけ
県内市町	推進チームへの参画、住民への啓発
商工団体	推進チームへの参画、会員企業への呼びかけ等

4. 登録制度の検討

- 県内の企業、団体、教育機関等がSDGsの視点を意識し行っている活動について、SDGsのゴールやターゲットに資する取組がより活発に展開されるよう、登録制度について検討していく。

(今年度は、民間企業・団体等と三重県との連携、20協働を推進するための窓口を設置する。)

4 三重県SDGs未来都市モデル事業～若者とめざすミッションゼロ2050～

「三側面をつなぐ統合的取組」

ミッションゼロ2050みえ ～みんなで始めるSDGs脱炭素プロジェクト～

＜産学官等のプラットフォームの構築＞

⇒「脱炭素宣言」をした本県において、知事を長とする行政・商工団体・企業・高等教育機関等で構成する脱炭素に向けたプラットフォーム「ミッションゼロ2050みえ推進チーム」を構築し、推進チーム内に組成する「若者チーム」とともに、脱炭素に向けたモデル事業の実施、普及展開を図っていく。

＜推進チーム取組スケジュール＞

	初年度	2年目	3年目
取組内容	課題抽出、 モデル事業検討	モデル事業実施 (家庭部門、運輸部門等)	モデル事業検証、 普及展開の検討
若者チームの参画	意見発出、 留学生も含めた「若者アンケート」実施	モニタリング等モデル事業 への参画	普及展開の検討への参画

＜普及啓発イベントの開催等＞

⇒「ミッションゼロ2050みえシンポジウム」を、脱炭素とSDGsをテーマに開催するとともに、「SDGsと県の取組説明会」を県内で開催し、SDGsの考え方と三重県の取組について、広く普及啓発していく。

＜企業等と連携した取組＞

⇒ESG投資やRE100等の環境経営の取組、再生可能エネルギーの導入等を計画する事業所に対し、アドバイザーを派遣し、企業の取組を支援する。

「経済、社会、環境の各側面の相乗効果」

経済→社会

○若者の社会参画の機会促進

- ・若者にとって魅力的な企業が増加、県内企業への就業促進
⇒若者の定住率向上、UIターンの促進
- ・新エネルギー等、エネルギー関連技術の高まり
⇒脱炭素社会に向けた家庭での取組への参加が容易に

社会→経済

○若者を始めとする人材の県内企業への就職

- ・脱炭素に向けた意識の高まり
⇒新エネルギーや環境に配慮した製品の需要が高まり、新技術の導入等による製品開発促進、若者にとっての魅力向上

経済→環境

○自然との共生

- ・企業にとって担い手となる若者を雇用していくためには、環境にも配慮した経済活動が必要に
- ・AI・IoT等ICTの導入による効率化、新エネルギーの導入が進む
⇒廃棄物の排出抑制、ワンウェイプラスチックの使用削減などの活動に取り組む事業所の増加

経済

社会

社会→環境

○協創による環境活動

- ・海洋プラスチック対策、県内環境の保全に向けた、県民、事業者を含めた活動促進
⇒環境負荷の少ないライフスタイルへの転換促進

「ミッションゼロ2050みえ
～みんなで始める
SDGs脱炭素プロジェクト～」

環境

環境→経済

○持続的な資源活用

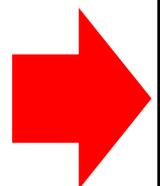
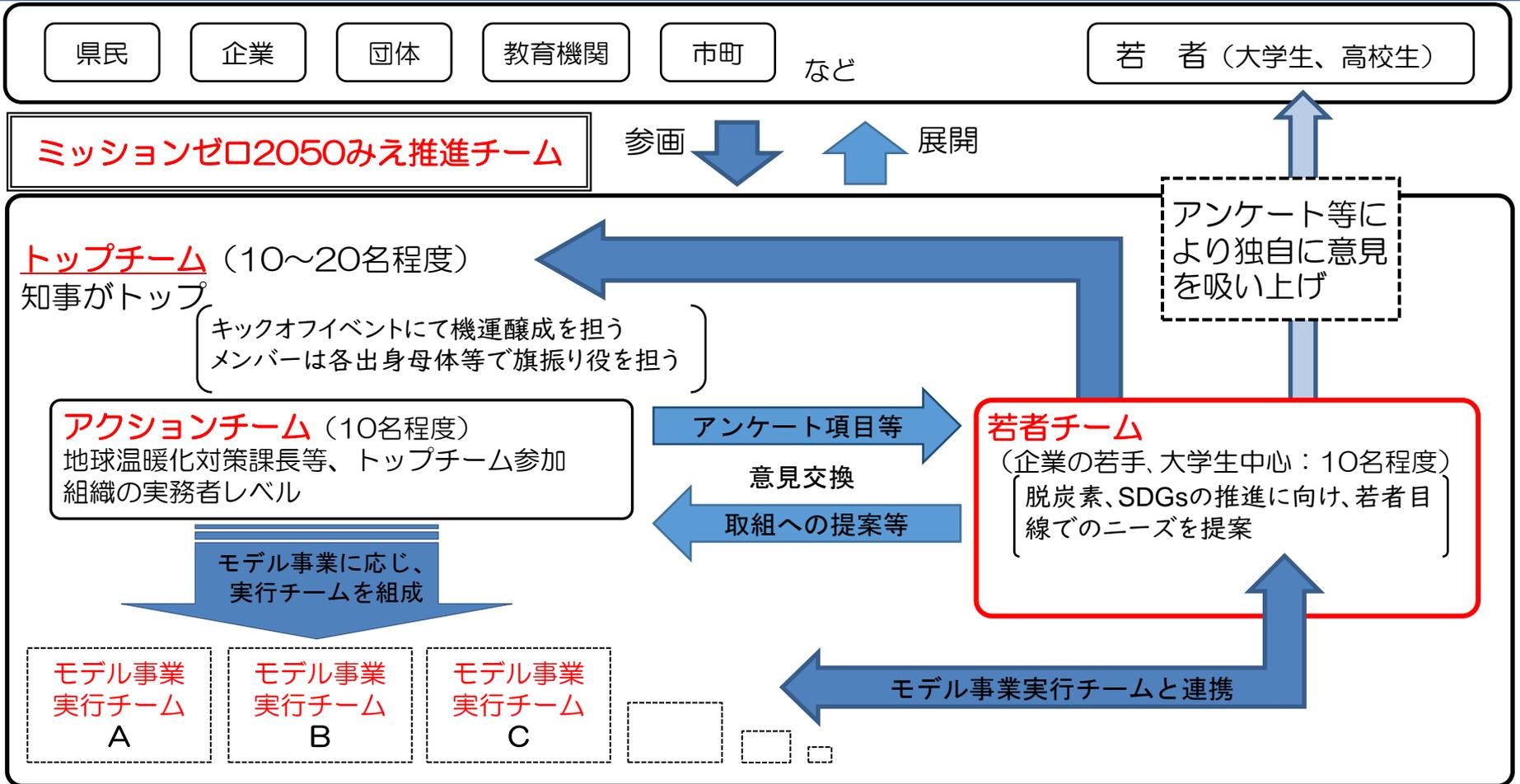
- ・自然環境の維持に向けた取組が進み、水資源及び水産資源の確保
⇒水産業・農業等の、持続可能な生産、製造業等での水資源の持続的な活用、安定的な生産
- ⇒観光資源である景観の維持

環境→社会

○シビックプライドの醸成

- ・企業の環境活動の高まり、若者にとって魅力的な企業が増加
⇒若者の県内企業への就業を促進、若者の定住率向上、UIターンの促進に

「自律的好循環の具体化に向けた事業の実施」



「脱炭素社会」の構築に向けた産学官等によるプラットフォームを構築し、県内若者が参画することで、脱炭素の取組の普及加速、若者のシビックプライドの醸成、県内企業の製品開発の促進、魅力向上、さらには、若者の県内企業への就職、県内定着へとつなげていく。企業や若者にもメリットが生じる、自律的好循環をめざす。
県内企業、団体等のSDGsに資する取組の活発化、普及に向け登録制度を検討する。